

甲斐市立敷島中学校 自己評価書（平成29年度）

平成30年2月16日（金）作成

校長 長田 靖

記述者 教頭 立川 武

学校教育目標

「一人一人の個性を伸ばし、自ら学ぶ生徒の育成を図る」

- 自ら学ぶ生徒（知）
- 心豊かかな生徒（情）
- よく働く生徒（意）
- 体を鍛える生徒（体）

指導の重点

- (1) 学ぶ力を育てる学習指導
- (2) 豊かな心と望ましい人間関係の育成
- (3) 健康・安全教育の充実
- (4) 愛情と信頼・生徒理解に基づく生徒指導
- (5) 地域・保護者との連携と信頼される学校づくり

1 全体評価

〈自己評価より〉

- ・51の質問項目によるアンケート形式で、全教職員（37名）から回答を得た。
- ・すべての項目において、A評価又はB評価が最も多い回答割合であった。
- ・A評価が最も回答割合が高かったのは31項目、B評価が最も回答割合が高かったのが25項目であった。また、C評価とD評価を合わせて10%（1割）以上の評価があった項目は、46項目中12項目あった。

〈生徒アンケートより〉

- ・27の質問項目によるアンケート形式で、全校533人中512名からの回答を得た。
- ・肯定的回答率が高かった（目安として80%以上）ものは、27項目中、17項目あった。
- ・肯定的回答率が高くないものについては、生徒の実態としてきちんと受け止め、分析をし、改善していく必要がある。

〈保護者アンケートより〉

- ・25の項目で、506名の保護者からの回答があった。
- ・肯定的回答率が高かった（目安として80%以上）ものは、25項目中13項目あった。
- ・回答から、敷島地区の保護者の、教育への関心の高さがうかがえる。また、「地域の行事への参加」「読書の時間数」については、課題として分析をし、改善していく必要がある。

【来年度に向け、改善が必要と考えられる内容】

① 学校教育目標・学校経営について

- ・PDCAサイクルに基づく実践を確実に行う必要がある。学校教育目標の実現に向け、計画に基づき、実態に合わせた実践を行う。

② 学校運営について

- ・特別支援教育の体制の整備をより充実させる。
- ・全教職員が学校運営への参画意識をより強く持つ。各自が校務分掌に基づいて職務を行うとともに、分掌以外の職務に対してもより積極的に関与していく意識をもつ。
- ・日頃から「危機管理」に対する意識をより高めるよう工夫する必要がある。

③ 学習指導について

- ・「やまなしスタンダード」に挙げられた7つの項目を、校内研究などを通し、全職員で同じ意識で継続して取り組む。
- ・「わかる授業」「学びの意欲を喚起する授業」を行うために、積極的に日々授業改善に取り組む。
- ・宿題や家庭学習に対する指導をきちんと行う。特に家庭学習については、授業との連関を考慮した課題を考える。

④ 生徒指導について

- ・不登校生徒や自学教室登校の生徒への理解をより深めるため、日頃から情報の共有化を意識して行い、指導方針の共通認識を図る。そのため、「生徒指導部会」や「不登校対策委員会」などの会議をより機能させるよう、担当を中心に工夫する必要がある。
- ・課題を抱えている生徒や家庭に対し、外部機関との連携を含め、粘り強い指導を継続する。

⑤ 地域との連携について

- ・地域の教育力を生かし、より地域とともに歩む学校づくりを行う。そのために、地域の人材や施設を活用するような取組を考え、実践していく。

⑥ 学校の特色について

- ・あいさつを進んで行う指導を継続して行う。
- ・生徒がより主体的に読書活動や合唱活動に取り組むための指導を継続させる。
- ・「鍛錬」「有価物回収」など本校の特色として行っている教育活動については、P D C Aサイクルを意識した活動となるようにしていく。

2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）

I 学校教育目標に関して・学校経営について	
現在の状況	<ul style="list-style-type: none">○学校教育目標が学校経営方針を踏まえたものになっており、教職員は学校経営方針に基づいて、教育活動を行っている。○学年の教育活動計画は、教育目標や指導重点を踏まえたものになっている。○多くの教職員が校長の経営方針のもと、課題意識や参画意識を持って教育活動を行っている。

課題	<ul style="list-style-type: none">・各教職員が、P D C Aサイクルをより意識して教育活動を行っていく。・職場の福利厚生、健康管理をより充実したものとしていく。
----	---

II 学校運営について	
現在の状況	<ul style="list-style-type: none">○教職員は、相互理解・信頼関係を深めながら教育活動にあたっている。○学校運営上、校務分掌が適正に機能している。○諸表簿や文書、記憶媒体の管理が適切に管理・活用されており、個人情報の保護・情報セキュリティへの危機管理意識が高い。○安全点検が定期的に行われていることで、校舎内外における異状がすみやかに報告されている。また、修理や修繕すべき箇所への対応も、迅速・適切に行われている。○教職員は、コスト削減等職場環境改善に積極的に取り組んでいる。○教職員は、職務上、報告・連絡・相談・確認をきちんと行っている。

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が、より主体的に校内研究に取り組む意識をもつことが求められる。 ・危機管理に対する意識向上のため、マニュアルの徹底や訓練や研修の充実が求められる。また、不測の事態の際に、各教職員がより主体的に迅速かつ適切に事態に対応できるような取組も重要である。 ・教職員が特別支援教育への理解をより深め、特別支援学級に所属する生徒への共通理解と指導を行う。 ・通常学級に、特別支援教育のユニバーサル・デザイン化を学校としてより推進したい。
----	--

Ⅲ 学習指導について	
現在の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員は日頃の教育実践において、「民主的で規律ある集団づくり」を行っている。 ○各授業において、教材教具や備品等を活用して、生徒の理解を深める工夫を行っている。 ○「基礎・基本の定着を図る授業」を日頃より行っている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「心に響く道徳の授業」を計画的・系統的に行い、生徒の心を育てていく必要がある。 ・学びの意欲を喚起するような授業づくりをより実践したい。 ・「やまなしスタンダード」を取り入れた授業を、全職員で同じ歩調で実践する。 ・評価規準と評価方法をより明確にした授業づくりを行う。 ・宿題や家庭学習を授業と関連させ、生徒の学力の定着に向け工夫していく。

Ⅳ 生徒指導について	
現在の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員は、生徒理解のために生徒と積極的にコミュニケーションをとっている。(毎日の生活ノートや休み時間の会話など) ○問題行動(いじめなど)については、日頃の生徒との会話やアンケートの実施等を通して、早期発見・早期対応に努めている。 ○教職員は、生徒指導上の課題を共有しながら生徒への対応に努めている。 ○外部機関との連携が積極的に行われている。 ○生徒指導上の個々の事案に対し、学年職員を中心に粘り強く対応を行っている。 ○不登校の生徒や自学教室登校の生徒に対しては、担任や担当のきめ細かな配慮と家庭との密な連携により、改善しているケースも見られている。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・生き方教育(キャリア教育・進路指導など)については、各学年における体験活動にとどまらず、生徒の実態に応じて計画的・系統的に実践していく必要がある。 ・生徒指導部会や不登校対策委員会を、より有効に機能させていく。 ・いじめの未然防止、早期発見・早期対応については、常に危機管理の意識を持ち、継続して取組を行う。 ・スクールカウンセラーとの連携、スクールカウンセラーの活用をより積極的に行うことで、専門的・多角的な視点から生徒指導を行っていききたい。 ・「学級」をどの生徒にとっても大切な居場所として、より安心して生活できる場所・より開放された場所として、学級づくりを行っていく。

Ⅴ 地域との連携について	
	○学校評議員制度や学校関係者評価委員会の話し合いの結果が、学校教育に活かされて

現在の状況	<p>いる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校の教育活動が学校便り，学年通信，学級便り，部活動通信などの便りや学校のホームページを通して，保護者に伝わっている。 ○教職員は，保護者がP T A活動に協力的であると感じている。 ○有価物回収においては，保護者や地域からの理解と協力を得ながら実施されている。 ○年輪祭や合唱祭などの行事が，保護者だけでなく地域住民にも公開されている。そのことにより，本校の教育活動が広く知られる機会となっている。 ○昨年度，本年度の小中連携事業による活動で「あいさつ運動」に取り組み，地域の方々に理解や協力を得ることができた。 ○本校のP T A活動の一つの特色である「一人一活動」への協力では，のべ700人以上の協力が得られている。また，それぞれの活動がより多くの理解と協力の中，実施することができた。保護者も行事へ積極的に参加し，学校教育に対する保護者の関心や期待度の高さを感じることができる。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域の願いや要望を聞くような機会が設けられることで，保護者や地域の方々の考えや教育的ニーズを知ることができると考えられる。 ・今後も教職員と保護者が，P T A活動に主体的に関わっていけるような取組を考えていきたい。

VI 学校の特色に関して	
現在の状況	<ul style="list-style-type: none"> ○授業参観日，鍛練，合唱祭，学園祭などの行事の開催について，保護者に積極的に伝えている。保護者の参加も多く，学校への理解と協力につながっている。 ○教職員は，生徒が合唱や鍛練，リサイクル活動に主体的に取り組めるよう指導を行っている。

改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・読書を行う時間をより増やすことができるよう，学校としても取組を考えたい。また，学校の図書館の蔵書の充実に向け，市へ働きかけも行っていきたい。図書館の活用方法についても，今後も一層工夫していきたい。 ・生徒がより進んで挨拶をできるような取組を行っていきたい。
-----	--

3 まとめ

<p>〈成 果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校長のリーダーシップのもと，各教職員が学校教育目標の具現化に向け，取り組んでいる。また，教師は「わかる授業」「基礎基本の定着を図る授業」の創造を日々行っている。 ・より落ち着いた雰囲気のもと，教育活動が展開されている。そのような環境の中，より生徒に寄り添った指導を継続していく必要がある。 <p>〈課 題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この学校評価の結果を真摯に捉え，全校の教職員で共有・分析し，今後の実践に生かす。 ・P D C Aサイクルを意識して様々な取組を行う。それぞれの活動が有機的に関連づけられた計画のもと実践されることで，さらに教育効果が高まると予想される。 ・保護者や地域との連携を一層深め，「開かれた学校づくり」「信頼される学校づくり」を行っていきたい。
--